姉妹のきずなをいつまでも

白石市・登別市姉妹都市締結20周年

▲両市の特産品を抱えながらガッチリと握手
「ふるさと豆記者訪問団」として訪問した登別市立富岸（とんけし）小学校の皆さん（左）と白石第一小学校の皆さん（7月29日）

白石市章　登別市章

白石市は、歴史的な結びつきをきっかけとして、相互の友好と理解を深めるため、昭和58年10月、北海道登別市と姉妹都市の締結を行いました。

以来、市民有志でつくる登別・白石姉妹都市親善交流会が主体となり、青少年や市民団体の文化・スポーツ交流や物産展開催など、さまざまな交流が活発に行われ、今年で締結20周年を迎えます。

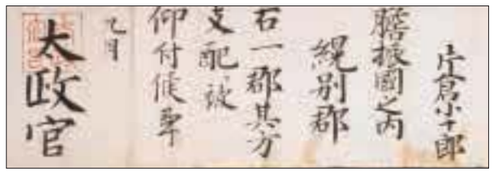
白石市（しろいし）と登別（のぼりべつ）市

歴史的つながり　～片倉家の北海道移住～

明治維新後の変革期、奥羽越列藩同盟のリーダーとして明治新政府に抗戦してきた仙台藩が、明治元年（1868）年10月に降伏し、白石城主片倉家も白石城を明け渡し、家臣たちも家禄を失い、非常に厳しい状況に追い込まれました。

このような時期、明治新政府に北海道開拓計画のあることを知った片倉家家臣たちは、傑山寺（南町）に集まり、片倉家と一体となって北海道移住を決議しました。

家臣一同は、按察府（あんさつふ）（注1）に北海道移住の嘆願書を提出し、明治2年9月、太政官（だじょうかん）（注2）から北海道幌別郡（現在の登別市）を片倉家の支配地とする辞令を受けました。



▲幌別郡を片倉家の支配地とする太政官辞令（白石市図書館蔵）

同年12月、当時の片倉家当主邦憲（11代）の代理として12代景範が初めて幌別郡に入り、家臣たちも家屋敷や家財を売って移住費用を捻出し、明治3年7月、第一陣の移住団が、海を渡って幌別に入植しました。

移住者たちはさまざまな困難に耐えて開拓の鍬をふるい、現在の登別市の礎を築きました。

＊按察府（注1）
当時白石城に置かれた、東北地方を管轄していた明治新政府の役所

＊太政官（注2）
内閣総理大臣が置かれる前の、当時の明治新政府の最高行政機構

姉妹都市締結へ…

白石市と登別市は、この歴史的なつながりがきっかけとなり、昭和57年に白石青年会議所が登別青年会議所と姉妹青年会議所の盟約を結ぶなど、民間団体の活発な交流活動が展開されたことが契機となって、昭和58年10月26日、白石市中央公民館で姉妹都市の盟約調印を行いました。

人が輝き　まちがときめく
ふれあい交流都市　のぼりべつ

登別市は、北海道の中心である札幌市の南西約110㎞に位置し、室蘭市に隣接しています。年間約350万人もの観光客が訪れる北海道有数の観光都市であるとともに、北海道で最も集積が進んだ工業地帯である室蘭工業圏の一翼として発展しています。

11種類の泉質と１日１万トンの湧出量を誇る登別温泉やカルルス温泉、登別地獄谷やクッタラ湖などの自然の名勝、クマ牧場・マリンパーク・伊達時代村といった三大テーマパークなど、登別市は見どころがいっぱいです。

■**人　口**　５４，７９９人
　世帯数　２４，４９３世帯
　（平成15年７月末日現在）
■**面　積**　212.11平方キロメートル
■**交通アクセス**
　新千歳空港から高速バスで約１時間
　札幌から高速バスで約１時間30分

◀**地獄谷**　1万年前に噴火した火山の噴火口跡。無数の噴気孔から轟音を発しながら水蒸気が噴き出し、地獄の様相を見せています。

◀**クッタラ湖**　美しい円形をした周囲8.5キロのカルデラ湖。手つかずの原生林に囲まれ、透明度は摩周湖に次いで日本第2位を誇ります。

◀**登別伊達時代村**　江戸時代の文化・風俗をまるごと再現したテーマパーク。片倉家に関する歴史資料を展示している「片倉資料館」もあります。

◀**登別地獄まつり**　北海道を代表するまつりの一つ。毎年8月末に登別温泉街で開催され、巨大な鬼みこしや山車が温泉中を練り歩きます。

◀**登別マリンパークニクス**　北欧デンマークのお城がモデルの海洋生態館を中心にしたテーマパーク。

◀**登別の物産品**　目の前に海、背後に山がある登別市は、塩漬けタラコをはじめ、豊富な海の幸・山の幸に恵まれています。登別のシンボル「鬼」をデザインしたキャラクターグッズやフクロウなどの木彫り品なども人気です。

◀**クマ牧場**　全国でも珍しいクマの牧場。円形の鉄柵の中に約160頭のヒグマが放され、野生そのままの生態を観察することができます。

◀**郷土資料館**　白石城をイメージして建設されました。館内には片倉家開拓遺品も展示されています。また、登別市には、片倉家家臣団が創建した「刈田神社」や「片倉町」の地名が今も残っています。